



vol.59

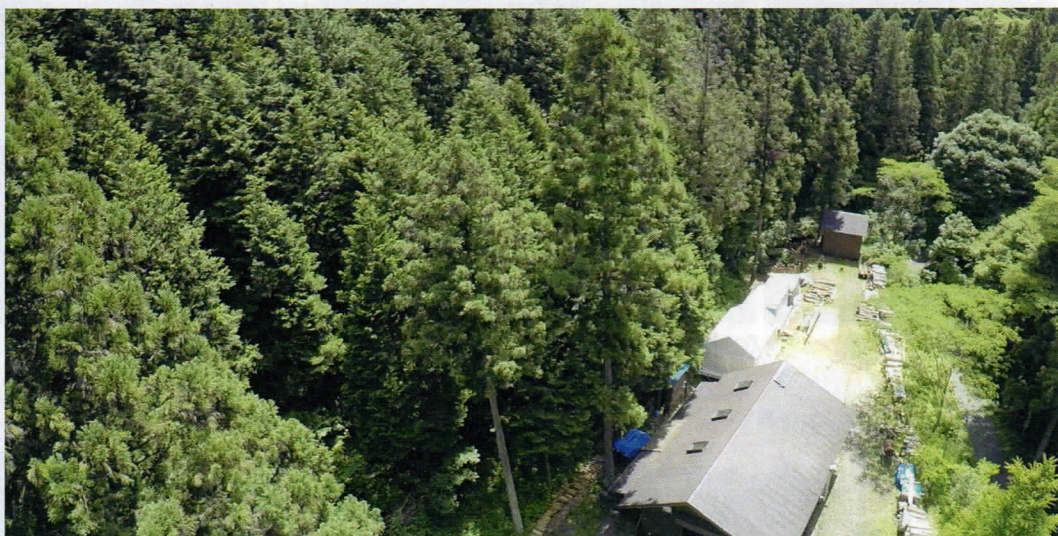
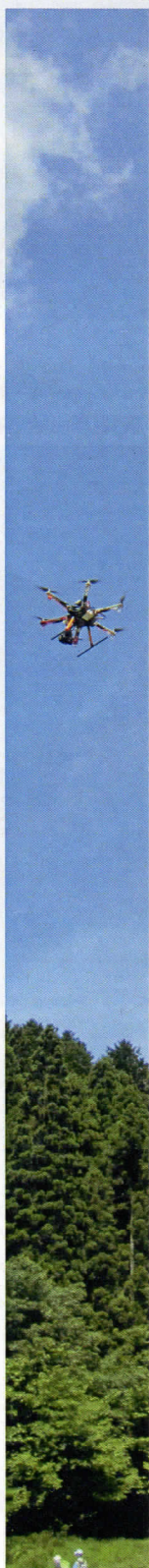
2015年
8月28日
発行

日本山岳会

「高尾の森」



—小下沢風景林の森づくり活動—



ドローンは「空の産業革命」
ドローンが世界を変える。
ドローンで映像革命
ドローンで物流革命……

小下沢ベースでも動物カメラ
映像をうまく吸い取ること
ができるか？
ハードルは高いが一丸とな
った挑戦が今後続きます。

<http://JACtakao.net>

15周年を祝う会のご案内

実施日／10月3日(土)
10時半～12時半
会 場／高尾山ビアマウント

目次	小下沢NOTE	02	器用だった「神蔵さん」	09
	新リーダー紹介	03	フィールドスタディ「高尾の森」	10
	大きな節目を迎えた高尾の森づくり活動	04	ドローン小下沢を飛ぶ	10
	森の研修会	05	動物カメラ担当より	11
	コニカミノルタサマーフェスタ報告	05	法人会員紹介	11
	各プロジェクト報告	06,07	ホームページへのお願い	11
	追悼 河西壽子さん	08	事務局だより	12

小下沢 NOTE 夏

6月定例作業



(A班)



(C班)



(京王電鉄親子スクール)

7月定例作業

7月16日台風11号の大雨でめったに濁らない小下沢が濁り、丸太橋がフワフワ浮かび今にも流されそうでしたがなんとか持ちこたえました。



まき枯らし(補助作業)



夏草の成長は早い

まずは作業道の草刈りから始める



厳しい暑さの中での下草刈り作業が中心で水を浴びたような汗でした。植樹木もツルや雑木を綺麗にしてもらい風通しも良くなり、気持ち良さそうな声が聞こえてくるようです。



2004年植樹「豆がき」

8月定例作業



(C班)



(D班)

新リーダー紹介



A班

守永日出夫

楽しく心地よい汗をかきながら地道に

6年前の春先、先輩と二人で、週末、高尾山、景信山を歩き、梅見をしようとザリクボ沢の登山道を下った時、小屋の前で偶然にも河西代表から声をかけて頂き、高尾の森づくりの会の活動を知りました。山歩きで時折見かける、手入れされていない山林の光景を思い出し、山林保全の一助になればと入会しました。

しかし、実際に会の活動に参加してみると、作業後のビールの味やアルコールを介した交流が愉しみとなり、いつしか森林保全の参加目的は希薄となっていました。

ところが、突如、作業班リーダーのお役目が回ってくると、自分自身に森林保全の基礎知識や作業技術が非常に乏しいことに気が付きました。幸い、会や班には、多くの経験豊富な先輩方がいらっしやいますので、皆さんからアドバイスや指導を頂きながらなんとか役目を果たしていきたいと考えています。

小下沢の森を美しい風景林に育てる作業は、長い年月を要し、かつ、危険が伴うものです。皆さんの協力で、「安全第一」を徹底し、楽しく心地よい汗をかきながら地道に作業を行っていきたいと考えます。



B班

小南全功

森林浴によるリラックス効果を求めて

森づくりの作業に初参加したのは、2009年6月です。

それまで富士電機山岳部で30数年春夏秋冬頂上だけ目指す「山」をやっていました。今では、会の作業で山中をさまよい頂上を目指さない「山」が楽しくてたまりません状態となっています。

作業の習得レベルは、まだ低いですが先輩方の指導を受けながらレベルを少しでも上げたいと思っています。班の運営では「段取り八部」を念頭に作業案内と作業結果をメールすることや作業場所の地図を配り作業内容を事前に知ってもらうよう努めています。

ボランティアなので最も大事なことは「安全作業」に徹することと思っています。

これからは、植樹祭などのイベントを実施することより過去に植樹した木を中心にして森の整備を進める「育樹」に作業の軸足がシフトされると思います。大切な1日の暇を使って山中をさまよう訳ですから、楽しい1日になるようにしたいと思っています。

これからも森林浴によるリラックス効果を求めて小下沢をさまようつもりです。もちろん作業後の高尾駅周辺での会合も欠かさないよう努力します。よろしくお願いします。



C班

大森 茂

オリンピックの10年目までは森で元気に

新C班リーダーの大森です。C班は十河サブリーダー、一戸サブリーダー含め41名、安全で個性的な森づくりを楽しみたいと思います。

私は2009年「高尾に森づくりの会」に会社の山岳部仲間と入会し、満6年が経ちました。

入会後は先輩の指導による雪雨も厭わぬ教育(間伐etc、呑会)があり実に楽しい日々でした。

振り返ると、昔は年50回程度は山を楽しんでいたが、昨年、山は20回、森は29回の活動となってしまった。(何故か、高尾駅近郊も通ってます?) 山は雪山(今春は穂高岳)、森はエリア内の下見(景信北東/小下沢山/北稜尾根の道なきルート)が好きですが、森づくりと山はいつまでも続けて行きたいと思っています。

福島県いわき市の片田舎に生まれ、小学校は山の分教場の自然教育で学び「アメニモ負ケズ」の純粋な心を持つ少年でした。社会の光と影の中を生き延びた結果、また森に戻りました。抱負は2020年東京オリンピックの10年目迄は、森で元気に汗を流したい。そして「多様で豊かな森づくり」に関わっていきたいのでよろしくご指導下さい。



D班

高橋賢次

まずは会の作業指針に従い

D班のリーダーを拝命した高橋賢次です。

学生時代はワンゲルに所属し、また30歳までは大垣労山で奥美濃の藪山に親しんでいました。しかしその後、御多分にもれず家庭や仕事が忙しく山から遠ざかっていました。ようやく家庭も仕事も一段落した2012年2月、この会に入れてもらい山に舞い戻ってきた次第です。入会4年目のヒヨッコで、森づくりのなんたるかも良くわかりませんが、どうぞ宜しくお願いします。

さて、放置状態にあるスギ・ヒノキの間伐の重要性はヒヨッコにも理解できます。もっとも、どの木を残してどの木を伐倒すべきかは、いつも悩まされますが……。

一方、どのような森林を目指すのか? と問われると返答に窮します。図書館の森林コーナーを眺めると百家争鳴です。「間伐跡やギャップ地は放置が一番でやがて実生の広葉樹の森になる」、「樹冠がつるに覆われた状態も遷移の重要な1過程だ」、「林縁マント群落の役割は重要だ」等々、頭が混乱します。まずは会の作業指針に従い、諸先輩の教えを乞いながら、目指すべき森林像を求めていこうと考えています。

大きな節目を迎えた高尾の森づくり活動

2001年に東京神奈川森林管理署と協定を結んで小下沢で森づくり活動がスタートしてから15年が経過した。今年は、来年度からの第4期5カ年計画を立て、署と協定を更新する年に当たっているが、これまでと違って活動計画の大きな変革が必要となっている。

2005年8月に立てた長期計画では、「多様で豊かな森林」への回帰を進めるため、一定のテンポで広葉樹の植樹を行い、針広混交林を拡大して50年後に針葉樹と広葉樹の割合を50%に持っていくという計画であった。そのため当初はギャップ箇所への植樹。次いで強度の間伐（択伐）跡地への植樹と続く予定であった。第2期計画では署が利用間伐（木材利用タイプ）に併せて択伐を実施し、その跡地での植樹が実現できた。また、第3期ではヘリコプター集材による80年生ヒノキ林の間伐跡地での植樹ができた。しかしその後は、利用間伐がなかなか実現しないで今日を迎えている。

一昨年から218,219林班で署の列状間伐の計画があり、伐開列に植樹をと期待していたが、木材価格低迷のあおりを受け実現しないでいる。署では、列状の切捨て間伐も予算化を検討していただいたようだが、劣勢木を伐る定性間伐ならいざ知らず、機械的に列状に切り捨てというのは50年も育てた森林では余りにももったいない。間伐木がペイするまで待つのはやむをえないことだと思う。その木材価格だが、昨年秋やや持ち直しの気配を見せていたが、その後再び8ヶ月連続して下げ、今は過去最低の価格のまま改善の兆しが見えてこない。このような状況下で次期森林計画での主伐導入の要望も見送られることとなった。この数年、小さな面積のギャップ地を探して植樹を行ってきたが、それも尽きてしまったのが現状である。

さし当たっては来年度の植樹祭をどうするかという課題があり、また、これまでの森づくり活動は、植樹を中心に組み立てを行ってきたので、植樹が無いとな

ると、これに代わる活動をどうするかという大きな問題が生じる。勢い間伐をとということになると思われるが、間伐もこれまでは30年生程度の森林が対象で、初回間伐でもあり小径木中心で手鋸でも十分対応できていた。15年の歳月の中でそのような手頃な森林はほぼ無くなって、221林班の今までの実行箇所を除けばいずれも50年生以上の大径木の林ばかりになっており、手鋸での作業は安全の面からも難しくなっている。

50年生の林でも被圧木・劣勢木は介在するのでそれらの木を除伐的に伐る作業を行ってはどうかという意見もあるが、間伐をやる目的は、立木の密度を調整して林内に光を入れ、樹木の肥大成長と林内環境の改善に寄与することであり、上層林冠を構成する木の伐採が伴わなければ作業効果の面では意義は小さい。安全の面からも、これまでの手鋸による体験型の作業中心ではない新たな実行体制を再構築するときにきていると考えられる。

一方で、小下沢とは北高尾山稜をまたいで、板当国有林、滝ノ沢国有林、城山国有林が隣接しており、その広大な国有林の中には20～30年生程度でこれから本数調整の除伐や間伐を必要としている森林が何箇所も存在している。また風倒木被害地を伐採して植樹が計画されている森林もある。署からはここでの作業を検討してはどうかとのアドバイスもいただいた。ここならベースから通うことも可能であるので、次期計画の検討に当たり、協定を結んでいる区域にとらわれることなく、我々に求められる作業に対応して、班作業の組み換えなど体系の見直しを行っていくが必要となっている。

いずれ強度間伐や主伐が可能になった段階では、また当初の目標に沿った計画に組み直すことは当然ながら可能であり、状況に応じて柔軟に変化することができる組織を創り上げることが大事であると思う。全員参加で大いに議論していきたいと思いますので、会員の皆様のご意見をお寄せ下さい。

龍久仁人



平成27年度 第1回森の研修会

「疲れず安全に通行できる道づくり」 馬場隆博

平成27年6月6日(土)

6月6日(土) 快適な日和に恵まれた好天の下、小下沢国有林において、会員20名の参加で、「道作り」と「下刈作業」について、新体制の作業班正・副リーダーを中心に研修を実施しました。

会では「歩道整備指針」を策定しているが、道作り研修では、道作り班の松隈リーダーに講師をお願いし、日頃通行しているルートを通行しながら、歩道整備指針の解説と現場では、歩道の優良事例、改良が必要な事例箇所で、「疲れず安全に通行できる。」を基本に、

道の勾配の取り方、道幅、階段の設置箇所等具体的に、かつ丁寧に説明があった。

午後からは、2011年植栽地で、講師の日比野さんから、今月から本格的に始まる「下刈作業」について「下刈作業指針」と講師手作りの「下刈作業手引き」により、作業手順、安全対策等、リーダーとしての心構え等について講義があった。その後は龍事務局長の案内で、植栽地の下刈現場で植林木と周辺の実生、萌芽で生育している有用種の生育状況を具体的に観察し、下刈りの実践を学んだ。



2015A植栽地に向かう歩道の急勾配箇所、講義される松隈さん



コニカミノルタサマーフェスタ報告 真夏の夜のひと時 若き日のダメおやじを憂う

梅 雨明けを待っていたように連日猛暑の続いた7月。八王子市の(株)コニカミノルタで行われた「サマー・フェスタ」に出かけました。

毎年この時期に行われる、事業所で働く皆さんの「夏まつり」といったところで、仕事の終わった夕方から3時間、職場ごとに趣向を凝らした夜店のテントが構内に立ち並び大勢の家族連れでにぎわいました。

「森づくりの会」創設から法人や個人会員として活動に参加し、会報の印刷などにも協力をいただいている会社みなさんに日ごろの会の活動を知っていただこうと、初めて参加を申し出、写真パネルや間伐材などで作った木工製品、高尾の自然を紹介した「横川コレクション」などを展示し「竹のポックリづくり」の体験コーナーなども試してみました。参加者は働き手の主力となっている若い職員家族の方が多く、社内バンドの演奏や抽選会などもあって大いに賑わいました。



入り口近くの場所を提供され展示品なども人目をひき、竹ポックリのコーナーにも遅くまで子供たちの列が絶えないなど会場の盛り上げにも一役。おじさんたちは、小さな子供たちに急かされながらいつの間にか真剣そのものの。気が付いてみると皆、汗びっしょり。遠い昔、わが職場でも年に何回かこうしたイベントがあったようすが記憶に薄く、楽しそうな若い家族を見ていて我が身を反省。すっかり楽しんでしまっている自分に気が付き、家に帰って妻の前でどんな顔をしようかと悩んでしまいました。

松田昭郎



第14回三宅島緑化再生プロジェクトに参加して

今回の三宅島PTでは、新規に「神着アジサイ園開墾」に着手しました。作業は笹藪伐採と取付け道の整備です。現場はすり鉢状斜面で高さ3m近い笹藪、倒木・かかり木・ツルの茂る環境でした。チェーンソーで枯木・倒木処理をしながら、刈払機で笹藪の処理を行ない、刈った笹を片付けるのですが、足元も悪く腕と肩が痛くなりました。早期に整備し「ガクアジサイ」や三宅島原種「ミヤケトキワ」等が咲き誇るアジサイ園の完成が楽しみです。お昼は美味しい島海苔弁当と豚汁に舌鼓。帰りは「ふるさとの湯」で汗を流し、宿にてビールで乾杯、満足満足。



最終日は、伊豆緑産の佐久間さんの案内で4月に開通したばかりの「大路池周廻遊歩道」を散策し巨樹を見学。鬱蒼とした原生林のなか幹周8mの「迷子樵」を皮切りに至る所にスタジイの巨樹を見ることができました。噴火を繰り返した火山島で、枝折れや溶岩に生育を妨げられ痛々しい姿の木々が目立つなか、これだけの巨樹が逞

しく育つ素晴らしさ。これらの巨樹は散策路から外れてひっそりと佇み、このままそっとして置きたい気持ちと、多くの人たちにも力強さを知ってもらいたいとの複雑な思いを実感しました。何はともあれ巨樹を守るのは島全体の緑あふれる環境です。私たちの活動が一助になれば幸いです。そして三宅マグマ神には活動を自粛して木々や鳥たち自然を慈しんで頂き、平穏を祈るばかりです。

功刀正仁

去る7月25日「三宅島帰島10周年および文化会館完成記念式典」が開催され「高尾の森づくりの会」に感謝状が贈られました。「帰島5周年記念」の時と併せて2度目です。それだけ私たちの「三宅島」での「緑化活動」が高く評価されているのでしょう。その活動も6年目(14回)、延べ植樹本数も凡そ15,000本、参加人員400人を数えます。「三宅島」も噴火災害から立ち直りつつあります。私たちも小さな力ですがこれからも引き続き支援して行きたいと思っています。

渡辺美夫

気仙沼復興プロジェクト報告

大島が“緑の真珠”として輝きを取り戻すにはまだまだ!

6月19日~22日に34名の参加者を得て「東日本森林復興支援気仙沼大島プロジェクト」が実施されました。

東日本大震災から早や4年が過ぎました。2011年にも6月、9月と二度気仙沼を訪れましたが、当時と比べるとかなり復興が進んだことは間違いありません。私たちの気仙沼大島での活動も今回で9回目となり、6月19日に気仙沼市から感謝状を戴きました。

故郷気仙沼の大島をこよなく愛した、詩人、水上不二はこう謳っています

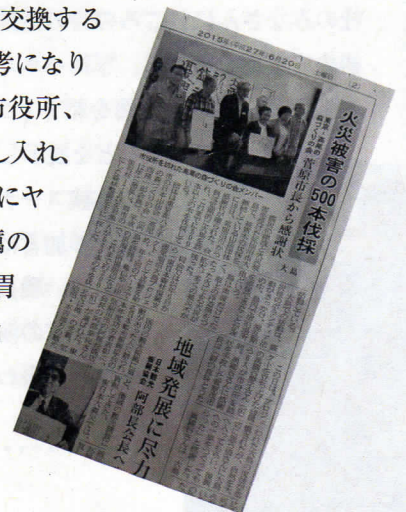
「海はいのちのみなもと、波はいのちのかがやき
大島よ とこしえ永遠に緑の真珠であれ」

大島が“緑の真珠”として輝きを取り戻すにはまだまだ時間が必要です。地震、津波、火山噴火などがある度に大自然の前に人間の存在の小ささを感じます。私たちの活動も東京から遠く離れた地であることから限界があります。しかしながら、正に継続は力なり、一歩ずつ、着実に前にすすんでいることが実感できました。

実質作業は6月20日~21日の2日間で、亀山と龍舞崎に分かれて、津波火災木、松くい虫で枯れた松などの伐倒、処理を行いました。北陸地方までは既に梅雨入りしていたものの、東北は梅雨入り前で、心配された雨が降ることもなく、作業は順調に進みました。かなり蒸し暑く、急斜面での大きな松の木を相手に苦戦を強いられた場面もありましたが、参加者全員が心を一つに、安全第一を念頭に事故もなく終えることができました。

今回、宮城県森林インストラクター協会から2名の方が参加され、種々情報交換することができたへん参考になりました。又、気仙沼市役所、地域の自治会からの差し入れ、更には作業後、BBQ中にヤマヨ水産さんから牡蠣の差し入れなどもあり、胃も心も満たされた気仙沼大島でした。

安井一彦



第5回「日本・ラオス友好の森植樹祭」に参加して 植林は将来の村の経済を支える効果も！

2011年から始まったこの行事に、初めて参加しました。常連の参加者から説明を受け、雨季での蒸し暑さ、スコールによる作業道の沢水、ぬかるみ状態の行動になる覚悟など聞き、おっかなびっくりでした。

今回は日本側の参加は19名（内高尾10名、初参加は6名）で、7月4日ハノイ経由でラオスの首都ビエンチャンに入り、翌日植栽地パンビエンに移動、森林開発センター（旧名農業技術サービスセンター）を訪問し、苗床を見学、続いて、今年1月末行った間伐実施場所を見に行きました。

植樹祭当日、集合場所のダムサイトには生徒、農民以下植樹祭始まって以来最多参加者という149名が既に待



機しており、農林省からも60名の参加があり、政府挙げてのプロジェクトになっています。



この日は雨季の遅れか、晴れ少し雲も出るという絶好条件で、小一時間の山路で植栽地にはあっけなく着いてしまいました。1 ha 程の斜面に1,000本の苗木（チーク、紫檀、ビルマカリン等11種類で、焼き畑からの森林回復の植林ということだけでなく、家具、高級建材、香木として、将来の村の経済を支える効果もある）を3人1組で手際よく植えてゆきます。植樹場所にすでに穴が掘っており、苗木も置いてありますから作業はどんどん進みます。その後、馬場さん準備の紙芝居「森のはたらき講座」を実施しました。

下山後の恒例の文房具、衣類等の贈呈式では、きらきらと目の輝く子供たちに感動です。そして懇親会には、ラッタナ開発センター所長夫妻、村長ら関係者が参加、友好を確かめ合い夜は更けて行きました。

島田正義

上柚木公園整備プロジェクト報告

林床に陽を

八王子の柚木の里をご存じでしょうか。現在56万人を超える人口の八王子市の東南部に連なる多摩丘陵の山間部にあり、多摩川の支流である大栗川沿いの地域で、一部は多摩ニュータウンになっています。この柚木の里に八王子市でも有数の規模を誇り、21haの面積を有する上柚木公園があります。

最近、東京都をはじめ八王子市など各公共団体は、公園の整備にあまり予算をかけられない状況に頭を悩ませており、上柚木公園も例外ではなく公園の荒れが目立ってきました。当公園の管理者である課長さんは、公園内の草花調査について指導を受けている高尾の森づくりの会会員である源原さんに、公園整備について相談し、それを受け、今年の2月当会の松川さんが公園の下見を行いました。

公園は東西に長く、北側は、大栗川に落ち込むような斜面に、コナラやクヌギなどの雑木林が約1 kmにわたり細長く続き、笹竹や下草が密生しています。その笹竹

などの刈り取りが主の作業とわかり、当会の会員でも協力できそうだということになりました。

手始めの作業場所は、公園の北西端にある2,000㎡ほどの斜面で、6～7人の会員が5月22日と7月27日の二回作業を行いました。刈り払い機などの機材や燃料は公園からの貸与を受け、二か月に一回程度の頻度で作業していく予定です。まだ、試験的な段階で先の見通しははっきりしませんが、方向性が決まり次第他の会員の皆様にもご協力を仰ぐことにもなるとお思いますのでご紹介いたします。

見留一禎





河西壽子さんを偲ぶ

追悼 河西壽子さん

河西壽子さんが6月25日に永眠されました。

(夫の瑛一郎さんが日常奥様を、としこ と呼び替えていましたので文中に壽子さんと記します事をお許し下さい)

昨年9月私が病気治療中の病院に、ご主人の瑛一郎さんと検査のために来院してこれ、壽子さんとは私は点滴の管を着けたままお会いしました。

その時に新潟粟島に移住した神蔵さんとも偶然同じ病院で会い、「同じ病院でガン友だ」と三人とも元気で笑って過ごしたのを思い出します。

粟島で竹取物語と一緒にやった神蔵さんが療養中6月21日帰らぬ人となり寂しさが癒えぬ内に、壽子さんの訃報が会員の谷亀さんから27日の朝ありました。ご主人の瑛一郎さんから病状を聞いていましたが驚きで声を発することができませんでした。

河西壽子さんとの出会いは、当会発足の平成12年に夫の瑛一郎さんから、今は退会したM氏と自宅に招かれ時です。飲食の支度している壽子さんを私とM氏は瑛一郎さんの御嬢さんと間違えたのです。それ程若々しく元気でした。

会の活動は、キッチン班を発足当初から自らやられていました。

活動に欠かせない調理器具の準備・料理の食材買付。特に大変だったのは飲食後のゴミを自宅まで持ち帰り処分されていたのです。

ある時、「ベースでの仕事が多く山にはなかなか入れませんね?」と問いかけたら、「誰かがやらねば活動できないのよ」と応えられた。

誰も知らないところで会が問題なく活動できるようにされていたのです。

プライベートではコーラスグループで活躍されており二次会でのカラオケでは抜群に上手だった様です。最近では夫瑛一郎さんとバトミントンクラブに入り活躍されていました。お仲間と山梨に遊びに来られて、レストランのオーナーさんがドライブで案内してくれたりしました。

夕方になると独り暮らしの私を気遣ってくれよく自宅に招いて頂きました。そこは高級レストランの一室を思わせるほどで、テーブルには壽子さんが作られた陶芸の器に美しく盛り付けされた料理を瑛一郎さんと囲んで山の話などで楽しく美味しい料理を戴いたことが思い出されます。

瑛一郎さんのチョットした困りごとをごく自然に優しくサポートしていた様子を、私は夫婦とは良いな〜と眩しく見ていました。

そのような優しい奥さんを亡くされた瑛一郎さんの気持ちが独り暮らしの私には痛いほど伝わってきます。

壽子さんは千の風になられたのですね。瑛一郎さんや高尾の森づくりの会をどこからともなく見守って下さい。

やすらかにやすみ下さい。さようなら。

黒木邦夫

器用だった「神蔵さん」



神蔵幸雄さんを偲ぶ

今から9～10年前だろうか？

新潟県にある魚沼郡福山へ15人ほどで森林整備と田植え、稲刈り体験などを行った。廃校になった小学校を寄宿舎として二泊三日くらいで汗を流した。プロジェクトリーダーは皆川さんが勤めておられた。

この時に神蔵さんの人となりを知ることになった。

特に稲刈りであるが機械で稲を刈り自動で束ねていく機械がある。何という機械かは知らないが？これがイライラするほど調子が悪い。手で刈っている我々にしたら「早く直してドンドン刈ってほしい！」と思っていた。おまけにブヨだろうか？体の周りをブンブンとび隙があれば噛みついてくる厄介な虫だ。刺されて顔が腫れあがっている人は一人や二人ではない。機械の持ち主の農家の方は冷や汗をかきながらいじっているがてこずっている。

そこで「俺が見てやる！」と神蔵さん。短時間で見事に直してくれた。さすが佐渡島出身だ！

その後順調に作業は進み刈り取った稲は天日干しにした。

各資格を20種ほど持っていたらしい。森づくりで使用するチェーンソー、刈払機はもちろんの事、クレーン車・料理・土木作業用の資格など……。

同じ新潟の粟島（佐渡島の上の方）で、観光活性化にお手伝いできればとの思いで移住を決意したのは今から7年前である。粟島では“竹取物語”と称し、竹林整備に取り組むことになった。我々高尾の森づくりの会メンバーも「神蔵さんのためなら」と多くの方々が来島した。竹林整備をした方ならわかりますが、切り倒すのは簡単であるが倒して後の枝払い、その片付けが大変である。それにしても神蔵さんのナタさばきは見事であった。

神蔵さんの発案で実行に移したのが、「入出港時での大漁旗ふり」また「干し物の販売」であった。また我々が粟島に行くと村長さんをはじめ島民あげて歓迎され土曜の夜は宴席を持っていたことが懐かしい。

粟島は昔竹細工で有名な島であった。御多分に漏れず神蔵さんは竹細工の腕前もプロ級だ。

流しソーメンやそれに使用するハシはもちろんの事、タレを入れる容器も竹である。みんな神蔵さんの発案で行われたと聞いた。

また粟島では烏骨鶏を20羽飼育し卵の収穫もあり販売した所即売だった。自信がついた神蔵さんは100羽迄増やし放し飼いにし、畑には穀物・葉物野菜を栽培し餌の確保をする。

楽しげに語っていた神蔵さんだった。卵は（かんちゃん卵）の名で料理に使用されている。

3年前休日に竹細工の製作に励んでいた時、突然体調不良になり検査の結果大腸癌と判明し、島民の皆さんに慕われていた神蔵さんは惜しまれて6月21日ご逝去されました。

ご冥福をお祈りいたします。

松川征夫



フィールドスタディ「高尾の森」

快晴に恵まれた7月12日（日）日本山岳会自然保護メンバー40人の方々が全国から我々のフィールド見学に来られました。

前日青梅で「自然保護全国集会」が開かれ様々な意見交換がなされたようです。翌日は現場に出て学ぼうという趣旨で、東京都最高峰「雲取山」へ行き、何本もある登山道を石積み活動で1本に絞って植物保護を行っている現場を見てくる。またあきる野市にある東京都の里山保全地域「横沢入り」の活動を見学。そして我々の15年間にわたる「高尾の森づくりの会」の活動を知る。の3班に分かれた。



午前中は

- ・15年間に亘る森づくり活動の説明（代表）
- ・高尾の森に棲む動物たち（山崎勇会員）

小屋内にて動物カメラ映像をご覧いただきながら5年間にわたる調査結果を話された。現在8台のカメラで「スギ・ヒノキの人工林」「人手の入らない自然林」「会で植樹した落葉広葉樹の林」の3形態に分類して各々2台設置して調査中。

昼食後は、

- ・フィールド見学

4班に分かれていただき、2班はザリクボ沢右岸の見学をしていただきました。

もう2班は2015年D班植栽地のガレ場での苦労話を仁藤前D班リーダーから。また登山道を挟んで右側の2003年から2004年の植栽地をも見学。

我々も井の中の蛙にならないよう様々な立場の方々との交流が必要と感じたのは私だけではなさそうだ。毎年開催されている日本山岳会「森づくり協議会」への参加もなかなか良い機会と思う。

松川征夫



鳥の目線で森をみる

今まさに、高尾はスズメバチの季節です。オスの蜂のことを英語でドローン（Drone）と言いますが、小下沢に、新種の蜂がやってきました。この蜂は、刺される心配はありませんが、数百メートルの高さまで飛び上がり、数キロも先まで行くことができます。

ニュースなどを通してご存知の方も多いかと思いますが、これは、ラジコンのヘリコプターです。今年、KDDI 財団からの助成を受けて2機を購入し、動物カメラのデータを上空から収集したり、植樹した木々の様子を観察したりするために利用する予定です。

その活動の一環として、6月7日に、河西さんの友人で、ドローン歴3年の篠崎さんをお願いし、ドローンによる小下沢の動画撮影を行いました。ドローンは、低い羽音とともに、あっというまにベースから200mの高さに飛び上がり、02,04,05,06,07年の植栽地を写しだしました。杉の木は、下から見る姿とは異なり、上からは、丸くもこもこしたガラス細工のように見えます。尾根筋は、大きな木の根のように枝分かれしています。まさに、鳥の目線で森をみるという、初めての体験をすることができました。撮影した動画は、会のHPにありますので、是非、御覧ください。

この日は、ウクライナ人留学生も参加し、楽しんでいただきました。小下沢での試みがうまくいったら、是非、ウクライナの美しい森を、ドローンで見てみたいと、夢はふくらみます。今後は、7～9月で動物カメラからのデータ収集機能を構築し、冬場の動物調査に貢献する予定です。

伊藤篤

ドローン 小下沢を飛ばす



植樹した苗木の食害や、ヤマ蛭の繁殖が心配

動物カメラ（ブシュネル社製トロフィーカム）で植樹地の哺乳類調査を初めて5年が経過しました。昨年の高尾の森通信で白井さんが報告しておりますが、シカ、カモシカの映像記録を表に纏めてみました。シカは2013年4月から毎年現れています。場所は植樹地全て（219～221林班）性別もオスとメス、年齢も1歳から4歳以上とこのフィールドで繁殖しているようです。

山崎勇

植樹した苗木の食害や、ヤマ蛭の繁殖が心配されます。

カモシカは、昨年5月に1回だけ記録されましたが今年も、5月にオスとメスが現れました。メスがテリトリーを持ち、オスが幾つかのテリトリーを廻って居るようです。

シカの記録



2013年	04/08	23:48	頭部	2008年D班植栽地
	08/09	6:23	角先と口先	巨木の森
	12/15	17:14	オスジカ上半身	2008年ABルート
2014年	05/09	19:12	メスジカ全身	2008年ABルート
	06/08	18:30	メスジカ全身	2008年ABルート
	07/31	18:03	オスジカ全身	2008年ABルート
	10/06	23:54	オスジカ全身（4歳）	T尾根
	11/25	5:09	オスジカ全身（1歳）	T尾根
2015年	05/02	20:30~37	オスジカ全身（1歳?）	初年度植栽地
	05/04	23:14	オスジカ（角二股出始め）	2008年ABルート
	06/09	5:01	オスジカ（同上）	2008年ABルート
2014年	05/07	5:37	オス	2008年ABルート
2015年	05/26	9:22	オス	2008年ABルート
	05/28	6:45	メス	2008年ABルート
	05/28	22:52	オス	2008年ABルート

カモシカの記録



新法人会員紹介

「三井住友信託銀行」さんが新たに法人会員としてご支援をいただけることになりました。心強い限りです。早速7月の定例作業に参加いただき、「またできれば参加します!」と心強い感想を述べていただきました。



高尾の森づくりの会

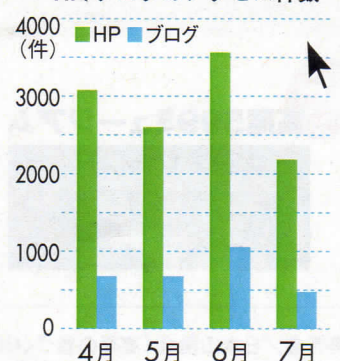
<http://jactakao.net/> ホームページへのお願い

2014年8月27日に高尾の森づくりの会のホームページをリニューアルし約1年が経ちました。ブログも掲載し、定例作業の様子や報告、イベントの速報などを掲載しています。

新着情報やトピックの更新をタイムリーに行なっていますので毎週チェックしてみてください。また、ブログの記事には感想などのコメントをして会員の皆様の積極的な参加をお願いします。リニューアルに際しては、トップページの見やすさ、案内や資料の探しやすさを優先して作成しましたが、まだまだ改善すべき点があります。内容（各種コンテンツ）の充実や古い資料の改定・削除や更新などが必要と感じています。つきましては、HPに追加したほうがよいコンテンツの希望や資料をご提供していただけないでしょうか。当会も創立15周年を迎えますのでHPをさらに充実し、高尾の森づくりの会のホームページをみたら森づくりのことはすべてわかるようなサイトにしていきたいと思います。アクセス数も日増しに増えており、事務局への問い合わせ等には迅速な対応をお願いいたします。

連絡先 ホームページ担当：十河三郎 Mail sogo@t03.itscom.net

HP/ブログのアクセス件数



事務局からのお知らせ

主な作業・行事記録

6/6(土) 森の研修会(作業指針)	18人
6/13(土) 定例作業(下刈り)	126人
6/19~22 気仙沼大島森林再生プロジェクト	のべ83人
7/4~9 ラオス展示林造成プロジェクト植樹ツアー	のべ210人
7/11(土) 定例作業(下刈り)	82人
8/8(土) 定例作業(下刈り)	62人
8/22~23 清新小父子キャンプ	のべ203人

- 集合場所・時間: 高尾の森ベース9:30集合
車で来る方は、高尾駅北口京王路線バス停(甲州街道)からの相乗りに協力下さい。
- 参加連絡: 事務局/龍久仁人あてご連絡下さい。
E-mail: ryu-kun@cablenet.ne.jp
電話: 090-4373-1555
はがき: 〒332-0031 川口市青木1-21-7-402
- 体験参加を希望される方は、上記事務局あてに申し込んでください。(住所、氏名、電話、メールアドレス記載)

今後の主な作業・行事スケジュール

9/5(土) 森の研修会(伐採技術等)
9/12(土) 定例作業(下刈・間伐)
10/10(土) 定例作業(間伐)
10/11~13 美林見学・天竜林業
10/23~25 三宅島緑化再生プロジェクト
11/14(土) 定例作業(間伐)
11/20~23 気仙沼大島森林再生プロジェクト
11/28(土) 臨時作業(紅葉鑑賞会)
12/5(土) 森の研修会(木工)
12/12(土) 定例作業(間伐)

- 第3(土) 毎週(木) ものづくり・小屋管理班作業日
- 第1(水) 生態調査班作業日
- 第3(日) 機械作業班作業日
- 第4(土) 下刈り補助作業日

入会者紹介

5月以降、次の方が入会されました。
山岸正克、三上良治、吉田幸子、牛山珠美子
法人会員:三井住友信託銀行株式会社

森の研修会に参加しよう

9月5日(土) 9:30ベース集合。テーマは**伐採技術**。選木、伐倒・玉切り方法、ロープ操作、掛かり木処理など現地実習を主体に研修を行います。9月から間伐が主作業になりますので、作業班リーダー・副リーダーはじめ多くの方のご参加を期待します。

秋季イベント参加者募集!!



第15回 三宅島緑化再生プロジェクト

三宅島雄山の噴火で被災した森林の再生活動を行います。

日程 ● 2015年10月23日(金)~25日(日)
(10月22日(木)22:00 東海汽船乗船)
作業場所 ● 三宅村雄山村有林、神着園地ほか
作業内容 ● 植樹、園地整備、道作り等
参加費用 ● 27,000円(往復の船賃、宿泊代を含む。)
申込み先 ● 渡辺美夫 watanabe-y@c3-net.ne.jp
TEL/FAX 045-893-1952

第10回 気仙沼大島震災復興プロジェクト

東日本大震災で傷ついた森林の整備復旧活動を通じて震災復興をお手伝いします。出入り自由。

日程 ● 2015年11月20日(金)~23日(月)
作業場所 ● 気仙沼大島
作業内容 ● 被災マツ林の伐倒、間伐、遊歩道整備等
参加費用 ● 交通費自己負担
宿泊費6,500円~/1泊。
申込み先 ● 小木曾裕子 yuko.ogiso@konicaminolta.com
TEL/FAX 042-342-4673(日比野宛)

OPEN

高尾599ミュージアム



八王子市所有で京王高尾山口駅近くに「高尾599ミュージアム」が8月11日OPENしました。場所は森林センター手前です。皆さんもぜひ来館してください。

編集後記

59号はなんといっても訃報でした。残念の一言です。壽子さんには「会報誌見やすくなりましたね。」といつも励まされてきました。11月号は節目の60号となります。メンバー同知恵を絞って編集したいと今から思っています。(松川)

